

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）

大学院生研究

2005年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	ビジネスデザイン研究科	ホスピタリティ 専攻
指導教員	所属・職名	氏名	
	観光学研究科 助教授	杜 国 慶 印	
自然・人文の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	個人 ・ 共同 名
研究課題	世界遺産・遺跡地・少数民族区域における貧困克服の観光開発プロジェクトに関する研究		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	ホスピタリティデザイン	やまと イク モリ 和 毓 森 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	ビジネスデザイン ホスピタリティ 2年	和 毓 森	
研究期間	2005	年度	
研究経費	200	千円	

**研究の概要**(200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

世界遺産の中には、武力紛争、自然災害、大規模工事、都市・観光開発、商業的密猟などによって、その普遍的価値を損なうような深刻な状態の遺産がある。世界遺産・遺跡地・少数民族区域・発展途上国の観光開発・貧困克服におけるメリットとデメリットを客観的に分析する。その上で人文社会・環境破壊・建築遺産破壊などの弊害とされる分野に対しどのような対処が可能であり、観光分野における開発と人々の生活、遺産・遺跡を共存させていく方法には、どのような選択肢があるかを提示することが本稿の目的である。本稿では、例として中国・麗江における観光の振興と世界遺産保護、それに対する対応を研究することによって、これからの世界遺産・遺跡地・少数民族区域・発展途上における観光開発・貧困克服のあり方に対する選択肢を提示する。

**キーワード**(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 世界遺産 ] [ 観光開発 ] [ 貧困克服 ]

**研究成果の概要(図・グラフ等は使用しないこと。)**

筆者は、本助成金を通じて、大きく分けて①世界遺産の保護と観光開発②遺産地・少数民族区域の貧困克服と観光開発2つの項目について、広く文献収集を行うと同時に、中国・麗江において現地調査を行った。(調査の期間は2005年6月から10月にかけてである。)

**1 背景**

2001年のWTO(世界貿易機関)加盟を機に、中国ツーリズムが画期的に発展し始めました。現在、観光の振興は、国をあげて積極的に取り組むが進められ、各地方及び省・市においても、地域おこし策及び総合的地域産業として、独自性を打ち出しながら観光施策を積極的に取り組んでいる。中国・麗江においても『観光立市』に向けての戦略等を活用するとともに、独自性を発揮し、観光における麗江ブランドの構築を目指す。本市の自然、歴史、芸術、人物、文化、民俗など高い潜在能力をもつ「本物」と呼べる観光資源を幅広く持っている。麗江が1992年代から政府主導による観光産業の研究・企画・建設を開始した21世紀向けプロジェクトを検討してみよう。

観光地の魅力を左右する最大の要素は個々の観光資源の魅力である。例えば、世界遺産はそれだけで観光資源として高いポテンシャルを有する。世界一、中国一、オンリーワンというものは、観光資源としての魅力度は相当高い。麗江地域には最も幅広いさまざまな天然資源、文化資源、そして建築、宗教、文化的な価値を持っている遺産がある。

観光産業は裾野が広く、21世紀に飛躍的な成長が見込まれる産業である。宿泊・運輸・飲食・レジャーなど直接に消費された分野のみならず、各業種、産業間の取引構造を通じて様々な分野への波及効果をもたらす、ひいてはこの生産波及過程において労働力に対する需要が生まれ、雇用が創出される。途上国における観光産業の開発には、外貨獲得収入源、雇用創出、貿易不均衡の埋め合わせといった経済的な高揚の可能性を持つという潜在的なメリットに加え、その一方で観光開発におけるエイズ・売春問題のようなデメリットの存在も否定できないことは事実である。自然災害、大規模工事、都市・観光開発、商業的密猟などによって、それから社会のグローバリゼーションを進めている観光業が地元文化的な完全性、遺産・遺跡の保全、基本的な生態学的なプロセスを守り、生物多様性を守り、また生命を維持するための体系を守っていかねばならず、観光計画をこれから地域社会に向けて、地元の人たちのものになる。産業の持ち物ではなく、天然資源、文化、アトラクションだけではなくそして投資も地元社会、地域の人たち自分の社会の中でオーナーシップを持っていくということが重要になっている。税収入を社会開発に使う、教育、医療設備、その他、サービスのために投資を返し、ほかの経済活動も拡大を目指す。

持続的に観光を開発するためには、適切な枠組みが必要である。物理的規制、そして財政、社会環境面での枠組みも必要である。政府は基本的なインフラという道路、上水道、電気、通信、空港、が提供する、また法的な枠組みも重要の一環である。社会的、経済的な成長のためにも、また貧困克服のためにも観光開発が重要な選択肢である。

**2 意義**

世界遺産の中には、武力紛争、自然災害、大規模工事、都市・観光開発、商業的密猟などによって、その普遍的価値を損なうような深刻な状態の遺産がある。世界遺産・遺跡地・少数民族区域・発展途上国の観光開発・貧困克服におけるメリットとデメリットを客観的に分析する。その上で人文社会・環境破壊・建築遺産破壊などの弊害とされる分野に対しどのような対処が可能であり、観光分野における開発と人々の生活を共存させていく方法には、どのような選択肢があるかを提示することが本稿の目的である。本稿では、例として中国・麗江における観光の振興と世界遺産保護、それに対する対応を研究することによって、これからの世界遺産・遺跡地・少数民族区域・発展途上における観光開発・貧困克服のあり方に対する選択肢を提示する。

**3 世界遺産の保護と観光開発**

①背景：1986年12月中国・国家歴史文化名城・策定；1988年10月中国・国家重点観光名所・策定1997年12月麗江古城・世界遺産に登録。実は、1951年以後、現地の機関、部隊、企業単位は全部古城内に設け、比較的により保存せられ、それ以後、国道の開通、古城内の機関単位は仕事不便で続々と古城を遷出し、新区を造り、1958年麗江人民政府が“古城を保存・新城を成育”の総体構想・計画を提出し、1986年の国務院は麗江古城が国家歴史文化名城と認定させ、麗江古城管理条例を制定し、古城全体保護を促進する。

②内容概要：利用と保護どのように適度で調整するのが、これは1本の難題である。世界遺産にとって、更にますます難しくなる。どのように全面的で、調和的な、持続的な発展が可能な方策の中で、3つ世界遺産大きい冠を持つ麗江、科学的な発展観を指導する視野にピントを合わせ、保護を探索し、調和と共に進む方法を利用し、国内外の世界遺産の分野に新しい目で見させる：a 保護命題を優先に；b 古城姿の完備性と典型性を保護する、科学的な“計画”を制定；c 遺産全面的に保護、元の風格そのまま維持、小橋流水の景観を回復する。財政からの資金を取り出し、民家を保護・修繕経費を補助、住民の伝統民家を保護の情熱を励ました。世界銀行ローンを利用し、全面的保護構想により、“54321”のプロジェクト工事を実施し、古城の排水システム、街の照明システムを新たに作り、道システム、完備の消防システムと電力、電気通信の系統的なラインを修繕し、衛生環境の施設、緑化用地、文化施設を増加し、四方街、新華街、七一街

に対して修復を行い、古城の建築密度と人口密度を下げ、それによって古城の姿と水体環境の清潔度の高まる目標を実現する。世界遺産管理委員会を創出し、企業規格によって古城管理有限責任会社を創出し、行政管理と市場運営を実行し、両方から同時に活動を進めてのネットワーク管理目標を達成した。2004年、“中国・麗江世界遺産フォーラム”を開催し、国連教育科学文化機関、米国の大自然保護協会の要員を出席し、インド、マレーシア、ベトナム、スリランカ、フィジーのなど国の専門家、学者、中国26カ所世界遺産地代表、専門家などが世界遺産について利用・保護のテーマに議論した。

麗江古城の保護管理と観光開発は歩調を合わせて発展する経験が高度な評価を受けた。保護・利用互いに補完する、共勝ち、麗江の持続的発展が可能に、革新の構想は新しい道を開拓し、103億元民営の資本の保護に参加を誘致し、科学的な発展観で指導を行う『世界遺産・麗江モード』を創始した。麗江は“世界遺産フォーラム”を出し、スイスのであるバオス世界経済論壇、海南博鳌アジアフォーラムの生んだ社会の効果を類似し、全面的に麗江の観光ビジネス展開を目指している。

『世界遺産・麗江モード』具体的な操作方式は：a 政府の指導もと、古城の歴史、文化に対して保護し、開発と新区は

組み合わせでセットにして建設し、統一的に計画し、全面の運営を展開する；b 企業の投資誘致より、実際的な生活の需要と観光業の視角によって、古城のインフラが建設する；c 開発商と地元居住村民との両方の利益に配慮を加え目指し、村民を導いて自立的な経済を発展する；d 観光の協同組合を組織し、観光発展の中、圏外の住民と貧困者利益を重視し、観光開発の中ただ少数者利益の不正行為を回避し、株式制と協会方式によって圏外村民の収入の少ないより、村民を組織し、多数人を役に立たせ、観光コミュニティの管理より多数者利益が実現した。

③成功要因：省長・市長のリーダーシップ、素早い判断力と行動力があって成り立ったものである、プロジェクトのおおきな推進力となる；行政によるプロモーション活動；官産学連携、外部意見の受け入れ、それについて具体的な方策を立て実行した；管理・運営における市民と行政とのパートナーシップ形成

④効果：文化・建築・芸術への関心を上げになっている；各種フォーラムの開催；近隣地域のみならず全国的に注目され、世界多くの視察者、

観光客が訪問してきている、自らのアイデンティティとして文化都市を標榜する麗江の名を世界に広く示すことで、地域のさらなる魅力向上にも寄与している。

⑤今後の課題：今後の運営・管理を維持していくためには、次世代の人材を発掘・育成していく、そして多くの市民がボランティアとして運営に参加するしくみづくり；当プロジェクトにより市民主導の施設、運営ノウハウや官民パートナーシップ形成の手法を他の行政サービス分野にも応用するなど。

#### 4 遺産地・少数民族区域の貧困克服と観光開発

麗江世界遺産地・少数民族地域振興の方策、観光事業の展開が政府主導による研究開発有効であった例が多数みられる。研究開発に関しては、官産学や省庁間の壁を取り除き、指揮・調整系統を一体化して、「柔軟構造」を作り上げた。そして、この構造が、観光産業の発展のエンジンとなったと考えることができる。麗江市観光局はこのほど、今後5年をめどに同市を国際的な観光地として整備していく方針を明らかにした。主な名所として麗江の古い街並みや玉龍雪山、瀘沽湖、老君山の四大観光スポットのPRに力を入れる。

①麗江・瀘沽湖地域はこの50年間で、原始的な生活習慣はもう過去のものとなった。昔は原始的かつ貧困で立ち遅れていた村には、現在では経済発展や、人と自然の調和的発展という新しい局面が見られつつある。近年において、摩挐族は地元文化を利用した観光産業の開発を進めている。民族料理の試食、摩挐族の住居での宿泊体験、民族衣装の試着などのほか、木でできた摩挐族の伝統的家屋を休憩所として提供するなどレジャー観光向けの施策を打ち出している。摩挐族の村や自然をバックにした、「企業＋農家」というモデルでの観光資源開発だ。摩挐族の伝統的な建築や生活習慣、客を熱くもてなす礼儀などに手を加えないことを前提に、現地のインフラ改善を支援し、現地の人々に農業科学技術を指導し、現地産業の発展を導くことが狙い。絹織物や装身具、陶器など民族工芸品の製作も同時に拡大させている。こうした保護を兼ねた開発により、観光産業を充実させ、産業を通じて現地の生活を豊かにすることを目指す。

②麗江・黄山鎮は「ナシ歌舞のふるさと」美称をもとからあって、麗江古城から2キロメートル、境界内に高原湖——文筆海、文峰寺、普濟寺、秀麗な魅力的な田園風光、唯一特に純朴なナシ族の民俗民風を保有する。1999年、から政府は豊富な旅行資源と地域優位を立脚し、田舎田園民俗観光が開発を決定した。「一村(ナシ民俗村)、一海(文筆海)、一寺(文峰の寺)、一園(西山ナシ園)」など資源を観光ブランドに打ち出した、「ナシの人間に1日なる」を主題とする田舎田園民俗旅行を出した、定点の旅行接待する農家が既に61戸に達し、ノルウェーの国王、ジブチの大統領、タイの議長など国内外貴賓を招待した。2005年1—10月、モデル家庭で輻射することに大部分農家も見習った。村すべて民俗文化観光接待は42軒があり、就職人員は320人の以上に達し、接待の国内外観光客が既に25万人を突破し、総合的の観光収入が680万円を超えた。政府が民俗旅行プロジェクトを支えるために、農民に旅行業接待・サービス儀礼育成、外国語養成訓練班、大理・昆明視察参観団の組織、迅速に発展した。観光局主催する「農家楽等級ランク評定活動」も行う。全部で4つ星ランク3軒を選出し、3つ星クラス15軒、2等級ランク10家、2等級ランク4家。経営管理の強化、「農家楽しみ」観光市場の規範、サービス品質を高め目指しは等級ランク評定活動の意義趣旨である。「農家楽しみ」旅行プロジェクト順調に発展、地元関連経済に有利促進、観光製品の専業化・多様化など多方面に積極的な影響を与えた。

③麗江・東川古鎮の開発保護モードは：先進国で、古城鎮保護は主に政府からプロジェクトとして立ち上げて、投資する。東川古鎮の開発保護が企業から投資・運営・保護・開発モードを形成した、発展途上地区の歴史文明の保護モードとして推薦させる。東川モードの啓発のひとつ：文化をプロジェクト重点として強調し、人文を注入し、東川茶馬古道歴史形成の独自の特色を持つ地域文化を収集、整理、発掘、展示した、地域文化の特徴として家屋、水系、道路など、建築群を載せ体として保存する。啓発2:総合的の開発プロジェクトが市場・顧客の需要により、「市場適応」理念の基に展開する。市政基礎施設、民間用の建築、緑化庭園、広場などがみな統一計画立案を執行し、「統一設計・統一施工・統一管理」、建築の機能、コスト、規模の大きさを組み合わせ、区域空間の合理的な構造を設計する。1年間、産業発展の規模を形成し、旅行業発展の需要を満足した。啓発3:現代文明社会の情報マスコミシステム、生活方式を引き入れ、当地住民に生産・生活の中にあらせ、自分の生産・生活を引率し、当地住民の就業・移転を実現し、住民がサービス業、手仕事製造業などを従事になる。観光産業を溶け込ませる発展の中、労働報酬を入手し、労務収入は増え、コミュニティ基礎施設を改善し、農民から市民の移行の秩序が実現する。300の余り家の村民従事する食事、活動の経営を通じ、年平均収入は大幅に増える。

#### 5 本研究結果に基づく提言

観光というのはプラスのベネフィットとマイナスの問題点も出てくるということである。観光産業の側から長期的な視野を持った場合、デメリットに対する観光産業界の姿勢として、黙殺よりも積極的な問題対処への姿勢を打ち出すことは大事なことである。①観光の開発において、全体の中で計画・開発など、プロセスで重要な役割を果たすべきであると思う。計画をしっかりとし、開発をし、マネジメントをちゃんとすることで観光業によって地元には雇用と所得がもたらされる。また地元の起業家の人たちが中小企業などを設立することができ、また地元の文化や伝統などを刺激することができる。新しい小売業、レクリエーション、文化的な設備を改善することができ、公園、劇場、文化的なセンターを地元の人たちと観光客とが共有することができ、②観光開発は物理的な自然、天然の、そして社会、文化的な資源を可能的に実際運営に整合する。その資源が保護をする姿勢を優勢に、観光業の内容に合わせるという判断が重要であると思う。遺産ということも忘れず、天然資源を維持し、さらに文化も高度なものに高める。そのためには国際的なスタンダード、あるいは管理、基準を適用するということも必要になると思う。③観光まちづくりを成功させるためには、地元の人たちが完全にコミットメントしてイニシアチブを取ることが必要である。それから意識を高めることが大事である。このような持続可能な観光開発からどのようなベネフィットが得られるのか、説得しなければならず。観光業で働く人たちが、地域の人がそこに参加しないということになれば、経済的な便益は失われてしまう。すなわち賃金はその地域から外に流出してしまう。効率的、効果的な管理運営より、便益が最大化され、マイナスの面は最小化するようにということがポイントになる。便益が公正な形でその住民の間に分配され、そして観光客も満足するものになっている、長期の社会、経済的便益のためには地域住民の参加が必要である。④遺産の保護と観光の開発により、欠かさないのは、地域社会の経済界、観光協会、そして旅行者の間での協調ということである。文化に重点を置いた観光業、そのパートナーシップであり、いろいろな形がある。計画、そして管理、マーケティング、また資金調達といったことについて、いろいろと考えなくてはならない。地域内外の金融機関が重要であり、このカルチャーツーリズムを進めるためには、地域内外の経済人、企業家と手を結ぶということによって、必要なスタートアップの資金が得られるということにつながっていくと思う。⑤また、観光業は非常に競争の激しい産業である。その中では質ということが肝心ということになる。観光客が非常に高いレベルの満足を得られるような形で提供することが重要と思う。質の高い観光業、その観光地となるということのためには、教育啓蒙が重要である。ホテルの管理、レストラン、ショップ、農業、お土産産業などほかいろいろな質の高いサービスを提供する必要がある。雇用の機会を提供し、継続的にいろいろな観光業者のトレーニングが重要である。重要なのは質ということである。同時に、自然、また文化的な環境を守るという努力、意識も重要と思う。将来の人材育成が重要な不可欠な一環と思う。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。